

## 8 消防費

### 1 消防費 1 常備消防費

[担当：消防本部 総務課] P.332

0501 消防総務事務に要する経費 21,193,311 円 (15,808,090 円)

[その他 820,100 円 一財 20,373,211 円]

\* 特財内訳

[手数料:危険物許認可手数料 820,100 円]

#### ○ 目的

消防行政事務の適正化と消防活動の万全を図る。

#### ○ 内容

##### (1)火災状況について

平成 18 年及び平成 17 年の火災における種別ごとの件数、焼失面積及び損害額は、それぞれ下表のとおりである。

火災種別		建物	車両	林野	その他	計
件数	H18	20 件	4 件	0 件	4 件	28 件
	H17	24 件	7 件	0 件	3 件	34 件
焼失面積	H18	1,067.21 m <sup>2</sup>		0	316,000.0 m <sup>2</sup>	
	H17	829.99 m <sup>2</sup>		0	75,000.0 m <sup>2</sup>	
損害額	H18	102,046 千円	635 千円	0 千円	0 千円	102,681 千円
	H17	94,215 千円	1,781 千円	0 千円	21 千円	96,017 千円

##### (2)救助活動状況について

平成 18 年及び平成 17 年の救助活動内訳は、それぞれ下表のとおりである。

事故別		交通事故	火災	水難事故	機械事故	その他	計
件数	H18	23 件	1 件	2 件	1 件	5 件	32 件
	H17	29 件	14 件	1 件	0 件	11 件	55 件
救助人員	H18	17 人	1 人	2 人	1 人	2 人	23 人
	H17	15 人	4 人	1 人	0 人	1 人	21 人

##### (3)スズメ蜂の駆除作業状況について

平成 18 年及び平成 17 年の駆除件数等は、それぞれ下表のとおりである。

駆除件数	H18	282 件
	H17	346 件
出勤延べ人員	H18	856 人
	H17	1,070 人

#### 効果

消防行政事務の適正な執行と併せて、効率的な消防活動を展開することができた。

[担当：消防本部 総務課] P.334

2001 職員研修に要する経費 1,322,280 円 (1,122,855 円)

[一財 1,322,280 円]

#### 目的

複雑多様化する各種の災害や、救急救助業務及び火災予防業務等に対して、消防職員が適切に対応するための専門的知識や技術の習得を図る。

#### 内容

茨城県立消防学校における教育をはじめ、各種の研修会に職員を派遣し消防職員として必要な資質の向上を図った。

- ・ 茨城県立消防学校救急科入校 3名
- ・ " 救助科入校 1名
- ・ " 火災調査科入校 1名
- ・ " ポンプ操法指導員研修 1名
- ・ " 気管挿管講習 3名
- ・ 救急救命士薬剤投与追加講習 1名

#### 効果

消防職員の教育訓練機関である茨城県立消防学校や、他の防災機関等で主催される研修会等に参加したことで消防職員としての資質の向上が図られた。

[担当：消防本部 総務課] P.336

2201 消防庁舎の管理運営に要する経費 28,927,872 円 (32,433,014 円)

[一財 28,927,872 円]

#### 目的

災害時の拠点施設である消防庁舎の適正な管理運営を図る。

#### 内容

消防庁舎の適正な維持管理に努めるとともに職場環境の整備充実を図った。

- ・ 消防庁舎 取手消防署 (取手市消防本部)
- 戸頭消防署
- 吉田消防署
- 櫛木消防署
- 宮和田消防署

#### 効果

消防職員は、その職務の性質上 24 時間勤務者が多数を占めており、適正な管理が維持されることによって、衛生管理面等職場環境の充実が図られた。

[担当：消防本部 警防課] P.336

2301 消防自動車等の維持管理に要する経費 11,479,770 円 (8,230,512 円)

[一財 11,479,770 円]

目的

消防自動車等の円滑かつ適正な運用の充実強化を図る。

内容

消防自動車の配置状況は、下表のとおりである。 (H19.3.31 現在)

署名	車 両 名	台数
取手署	取手1号車(化学車) 取手指令1号車	14
	取手2号車(ポンプ車) 取手指令2号車	
	取手救助(救助工作車) 取手指令3号車	
	取手梯子(梯子車) 取手広報1号車	
	取手照明(電源照明車) 取手広報2号車	
	取手搬送(資機材搬送車) 取手指揮1号車	
	ボートトレーラー 査察指導車	
戸頭署	戸頭1号車(水槽付きポンプ車) 積載車(ポンプ積載車)	4
	戸頭2号車(ポンプ車) 戸頭指令1号車	
吉田署	吉田1号車(水槽付きポンプ車) 吉田指令1号車	3
	吉田2号車(ポンプ車)	
梶木署	梶木1号車(水槽付きポンプ車) 梶木救助(救助工作車)	5
	梶木2号車(ポンプ車) 梶木指令1号車	
	梶木3号車(水槽付きポンプ車)	
宮和田署	宮和田1号車(化学車) 宮和田指令1号車	3
	宮和田2号車(ポンプ車)	
計		29

効果

消防業務の根幹をなす消防自動車等の維持管理が適正になされ、消防活動が円滑に図られた。

[担当：消防本部 警防課] P.338

2401 消防水利の維持管理に要する経費 5,749,365 円 (2,950,105 円)

[一財 5,749,365 円]

目的

消防水利の適正な管理運営を図る。

内容

消火栓及び防火水槽の数は、それぞれ下表のとおりである。(単位:箇所)

消火栓		防火水槽		計
100mm 以上	100mm 未満	40 m <sup>3</sup> 以上	40 m <sup>3</sup> 未満	
514	292	510	212	1,528

効果

消防水利の適正な維持管理が図られた。

1 消防費 2 救急業務費

[担当：消防本部 警防課] P.338

0501 救急業務に要する経費 2,965,502 円 (2,957,405 円)

[一財 2,965,502 円]

○ 目的

救急資機材の適正な管理と的確な救急業務の遂行を図る。

○ 内容

平成 18 年及び平成 17 年の救急件数と救急車による搬送人員は、それぞれ下表のとおりである。

事故別		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
件数	H18	2,561 件	468 件	505 件	694 件	4,228 件
	H17	2,592 件	587 件	502 件	597 件	4,278 件
搬送人員	H18	2,404 人	482 人	470 人	624 人	3,980 人
	H17	2,459 人	624 人	472 人	522 人	4,077 人

効果

救急隊員の病院研修等を含めた教育訓練を実施したことで救急技能の向上が図られ、充実した救急業務体制を確立することができた。

[担当：消防本部 警防課] P.340

2001 救急自動車の維持管理に要する経費 5,542,802 円 (5,583,101 円)

[一財 5,542,802 円]

目的

救急自動車の円滑かつ適正な運用の充実強化を図る。

内容

救急自動車の配置状況は、下表のとおりである。 (H19.3.31 現在)

署名	車両名	台数
取手署	救急取手 1 号車 (高規格救急車)	2
	救急取手 2 号車 (2B 型救急車) 予備車	
吉田署	救急吉田 1 号車 (高規格救急車)	1
戸頭署	救急戸頭 1 号車 (高規格救急車)	1
櫛木署	救急櫛木 1 号車 (高規格救急車)	1
宮和田署	救急宮和田 1 号車 (高規格救急車)	1
計		6

効果

救急自動車の維持管理が適正になされ、救急活動が円滑に図られた。

1 消防費 3 非常備消防費

[担当：消防本部 総務課] P.342

2001 消防団員に要する経費 43,719,351 円 ( 47,187,088 円 )

[その他 6,503,000 円 一財 37,216,351 円]

\* 特財内訳

[諸収入:消防団員退職報償金受入金 6,503,000 円]

目的

消防団員の処遇及び福利厚生充実を図る。

内容

消防団員の報酬と消防団員退職報償負担金及び消防団員公務災害補償等共済負担金等の各種負担金の支出。

- ・ 消防団員の定数 649 人
- ・ 消防団員の实数 608 人 (平成 19 年 3 月 31 日現在)

効果

消防団員の士気の高揚が図られ、消防団の諸活動をはじめ地域における自主活動にも積極的に参加する等、地域住民との信頼関係を築くことができた。

[担当：消防本部 総務課] P.342

2101 消防団の運営に要する経費 44,304,003 円 ( 23,200,047 円 )

[地方債 17,300,000 円 一財 27,004,003 円]

\* 特財内訳

[市債：消防防災施設整備事業債  $17,629,000 \times 1/2 \times 100\% = 8,800,000$  円]

[市債：消防防災施設整備事業債  $(18,354,000 - 8,800,000) \times 90\% = 8,500,000$  円]

目的

消防団の円滑な運営と消防施設等の適正な維持管理を図る。

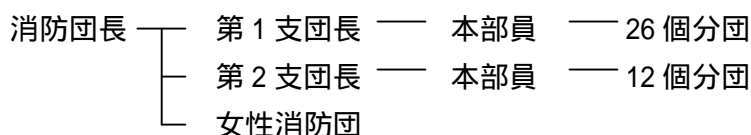
内容

消防団拠点施設の整備

分 団 名	第 1 分団 (新町 1~6 丁目、 取手 1~2 丁目の一部、中央町)	第 16 分団 (稲)
位 置	取手市新町 1 丁目	取手市稲
構 造 等	鉄骨造 2 階建	プレハブ造 1 階建
延床面積	94.77 m <sup>2</sup>	23.40 m <sup>2</sup>

消防団の組織については、下図のとおりである。

(定数 649 名)



## 効果

消防団活動の円滑化と消防施設等の適正な維持管理を図ることができた。特に第1分団の拠点施設については、水防倉庫との併設で整備したため、水防面での充実は図られた。

## 1 消防費 4 水防費

[担当：消防本部 警防課] P.346

2001 水防に要する経費 630,445 円 (956,089 円)

[一財 630,445 円]

### 目的

水防施設の適正な維持管理と水防体制の万全を図る。

### 内容

水害に備えた水防演習訓練への積極的な参加をはじめ、管内においては、排水樋管（取手・仲町）の適正な維持管理に努め、水防活動体制の確立を図った。

### 効果

水防演習訓練への参加をとおして、消防団員等も水害に対する新たな認識を持つことができた。また、排水樋管の適正な維持管理により周辺住民の安全な生活が確保された。

## 1 消防費 5 消防施設費

[担当：消防本部 警防課]

2101 消防自動車等の整備に要する経費 32,200,000 円 (0 円)

[国・県 12,561,000 円 地方債 17,600,000 円 一財 2,039,000 円]

\* 特財内訳

[国補：災害対応特殊救急自動車整備費補助金  $25,122,000 \times 1/2 = 12,561,000$  円]

[市債：消防防災設備整備事業債  $(32,200,000 - 12,561,000) \times 90\% = 17,600,000$  円]

### 目的

消防自動車等の適正な配備により消防力の充実を図る。

### 内容

高規格救急自動車の整備 32,200,000 円

### 効果

高規格救急自動車の導入により、取手市のすべての消防署（5 署）に高規格救急自動車が配備され、救急救命士の行う特定行為（気管挿管、薬剤投与）が可能となり、救命率の向上が見込まれる。また、多種多様な救急需要の対応が可能となった。